

平成 2 7 年第 2 回定例会

経 済 建 設 常 任 委 員 会 会 議 録

(平成 2 7 年 6 月 2 日)

栄町議会

経 済 建 設 常 任 委 員 会

議 事 日 程

平成27年6月2日（火曜日）午前11時15分開会

事 件（1）付託議案の審査

請願第1号 政府による緊急の過剰米処理を求める意見書の提出を求め
る請願書

出席委員（12名）

委員長	金 島 秀 夫 君	副委員長	山 田 真 幸 君
委員	菅 原 洋 之 君	委員	大 野 徹 夫 君
委員	橋 本 浩 君	委員	染 谷 茂 樹 君
委員	藤 村 勉 君	委員	野 田 泰 博 君
委員	高 萩 初 枝 君	委員	戸 田 栄 子 君
委員	大 野 博 君	委員	大 澤 義 和 君

欠席委員

なし

出席委員外議員

なし

説明のため出席した者

紹介議員 松 島 一 夫 君

出席議会事務局

事務局長 鈴 木 正 巳 君 書 記 野 平 薫 君

◎ 開 会

○委員長（金島秀夫君） ただいまから、経済建設常任委員会を開会いたします。

◎ 開 議

○委員長（金島秀夫君） 直ちに、本日の会議を開きます。

当委員会に付託された案件は請願第 1 号政府による緊急の過剰米処理を求める意見書の提出を求める請願書です。

請願第 1 号を議題といたします。

お諮りいたします。請願第 1 号は、審査の必要から紹介議員の出席を求めることにしたいと思っております。これにご異議ございませんか。

[「異議なし」の声あり]

○委員長（金島秀夫君） 異議なしと認めます。よって紹介議員の出席を求めることに決定いたしました。

[紹介議員着席]

○委員長（金島秀夫君） 松島議員には後ほどご説明をお願いいたします。はじめに、請願文書表の朗読を書記をお願いいたします。

[野平書記 請願文書表朗読]

○委員長（金島秀夫君） 朗読が終わりましたので紹介議員の松島議員に本請願の説明を求めます。松島議員。

○紹介議員（松島一夫君） 座ったままで失礼します。お読みいただければ、おわかりいただけると思いますが、若干、専門的な用語等がございますので、補足の説明をさせていただきます。早い話が、この過剰米処理を求める意見書は、過剰米を処理することによって需給バランスを改善して、最終的には米価を上げていただくということでございますが、まず、請願趣旨の補足説明をさせていただきます。

上から三段目、当然、農家の方は十分ご存知のことなんですけども、平成 26 年の千葉県産米の概算金、概算金というのは、JA 全農が都道府県ごとに示す、要はお米を買い上げたときの前払金とか一時金ということでございますが、これが前年を 2,700 円下回る 9,000 円と。当然、前年は 9,000 円プラス 2,700 円の概算金が支払われております。因みに、全国的に見ますと、60 キログラム、1 俵あたり 2,000 円から 3,000 円概算金の方が下がっておりまして、8,000 円から 10,000 円程度でございました。これが概算金でございます。当然、その後、米価の確定によってここに上乘せされてくるわけでございますけれども、とりあえず概算金はこれだけ支払われておりましたということでございます。

次に、昨年から経営所得安定化対策による米の直接支払交付金が半減された、とございます。

米の直接支払交付金というのは、農家に対して10アールあたりいくら支払われるかということなんですけれども、この金額が7,500円です。10アールは1反です。平成25年は15,000円でした。これが平成26年、15,000円から7,500円に半額になっております。それから、米価変動補填交付金も事実上、廃止されました。当然、円安によって燃料費・電気料金の値上がりで生産費を下回っている米価という現状がございます。お米の生産費が全国平均で見ますと、60キログラムあたり13,000円位です。関東地区で13,000円程です。当然、地域によって違いますし、耕作している面積、大規模で耕作すれば生産費は下がってくるわけですけれども、概ね13,000円程度でございました、米の生産費が。それに対して9,000円プラスアルファ、最終的に10,000円程度になりますので、生産費を当然下回っているということでございます。

そもそもこの間の米価下落は平成25年から平成26年の基本方針を定めた平成25年11月の食料農業農村政策審議会食糧部会において、食料農業農村政策審議会食糧部会は当然、農林水産大臣の諮問機関でございます。ここにおいて平成26年6月、昨年末の在庫が平成24年に比べて75万トンも増える見通しを政府が認識していながら何ら対策を講じてこなかったと。この在庫でございますが、ちなみに平成25年11月28日に開催されましたこの食糧部会、「米穀の需給及び価格の安定に係る基本方針の変更について」という内容で話し合われております。このときに、民間在庫量、平成24年6月末、180万トンでございました。平成25年の6月末が224万トンでありました。平成26年、要は25年ですから翌年の6月末の推定在庫量は255万トン、つまり平成24年6月末と比較して75万トンが増加するということが見込まれておりました。にも拘わらず、その需給の調整を一切していなかったということがここで述べられております。

更にはいわゆる攻めの農政改革で3年後に政府が需給調整から撤退する方針を打ち出したこと、これも今回の米価の下落に拍車をかけていると。いわゆる攻めの農業というのがございますが、正式には「攻めの農林水産業」のための農政の改革方向という名称で、これも平成25年11月に農林水産省が発表しております。ここで3年後には政府は需給調整をしませんよと、勝手に農家の人達に、自分たちで計画して生産して、計画して売りたいという方向に持って行くという方針でございます。従いまして、主食の米の需給と価格の安定を図るのは、政府の役割であるにも拘わらず、明らかに在庫が過剰になっている現状に対して何ら手を打たないというのは米価の安定に非常によろしくない。そこで、米の過剰米の処理を早急に行ってくださいというのが本請願の趣旨でございます。概略、補足説明は以上でございます。

○委員長（金島秀夫君） 紹介議員の説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑はございますか。野田委員。

○委員（野田泰博君） 良い機会ですので、米のことというのは、まるで私、わからなくて、色々な質問をしたいんですけれども、結局、これ、簡単に私達みたいな普通の素人、農家でな

い人間が分かり易く考えるのは、本当は政府が需給バランスとか何かみて、調整をしなきゃいけないのに、先程の松島議員の話ですと、需給調整を行うのは当然であります、というところ、要するに自分達で生産調整して、政府は関与しませんよということで、今、米の値段が生産過剰になってバランスを崩しているということなんですね。それで、その政府の介入をもう一度しなさいよという請願、大きく言ってそういうふうに捉えていいんですか。

○委員長（金島秀夫君） 松島議員。

○紹介議員（松島一夫君） おっしゃるとおりでございます。需給調整、当然、その民間在庫若しくは政府の備蓄米ですね、ちなみに平成26年の9月末の備蓄量は99万トンございます。平成25年6月末が91万トンですから、政府備蓄米もここで8万トン増やしております。ちなみに、平成26年6月の備蓄米が一番古いのが、平成19年産でございます。平成19年産の備蓄米がどのように使われるのかは具体的には分かりませんが、例えば平成21年の4月に米穀の新用途への利用の促進に関する法律というのを作っているんです。要は主食の米だけではなく、別な使い方を促進する法律というのがあって、ビーフンですとか飼料、お酒、お米のピューレなどと言いましてゲル状にして、それを材料にするといいパンができるとかそういうようなことに利用を促進する法律があるんですけども、ほとんどそれも機能していないような状態でございます。この法律が機能すると民間在庫や備蓄米がある程度処理されるのではないかと私は考えますけれども。

○委員長（金島秀夫君） 野田委員。

○委員（野田泰博君） 私の認識はそんなに間違っていない、この書いてあるとおりだということで、それともう一つ、過剰米処理を次の意見書の中を見ると緊急に過剰米処理をしなさいという、「過剰米処理」というのは、燃やしちゃいなさいとか食べちゃいなさいとかどういうようなことなんですか。

○委員長（金島秀夫君） 松島議員。

○紹介議員（松島一夫君） 当然、処分じゃないですから、「処理」ですので、いま申し上げたように、新しい用途の利用できるように政府が音頭をとって、旗振ってくださいというようなことなわけで、そういったことからこの意見書の提出先に財務大臣や経産大臣が入っております。当然、経済産業省あたりが中心になってそういった新たな利用方法を積極的に政策推進しないと、農林省だけでやれる問題じゃないわけだというふうに考えています

○委員長（金島秀夫君） 野田委員。

○委員（野田泰博君） 結局、これを見ますと、請願主旨を見ますと、平成25年の食糧農業農村政策審議会食料部会で、平成26年6月末の在庫が平成24年に比べると75トンも増える見通しというのは、食料農業農村政策審議会食糧部会というのは政府が組織している部会なんですよ。

○委員長（金島秀夫君） 松島議員。

○紹介議員（松島一夫君） 農水大臣の諮問機関、ですから、いわゆる農業等に識見を有する方々が審議会を作って、農水大臣に答申するわけです。農水大臣から、米の需給、価格の安定に関してどのようにしたらよいかというふうに諮問投げられて、そこでその有識者会議で答えを出して答申するということです、この食糧部会は、政府の役人ではないです。

○委員長（金島秀夫君） 野田委員。

○委員（野田泰博君） 分かりました。政府の役人ではないわけね。そこで出した答申には何ら対策しろと書かれてあったんだろうと思いますが、何でしなかったんですかね。どうしてかなと。この事態に至るまでにほったらかしにしているのは何でなのかなというのが僕は知りたいなと思ったんですよ。それともう一つになるんですけども、それと同じ関連して、今、米というのがテレビの情報なんですけれども、日本の米が海外ですごくもてはやされていると。高く売れていると。売ってる人はそっちの方にも売ってると。そういうのもうちょっと何か出ていくとか何とかいうのはこういう部会とか何とかで話し合ってると思うんですけども、そういう対策っていうのは何かあるんですかね。もう一度聞きますけれども、そういうこの部会というのがどんな機能で何をしてたのかなと。

○委員長（金島秀夫君） 松島議員。

○紹介議員（松島一夫君） 当然、野田委員の疑問はもっともなことでございまして、私も、これだけ在庫量を推定して、先程言った新たな用途に使いなさいというふうなことまで答申しながら、政府はなぜ手をこまねいていたのかということですけども、一つにはその、今、野田委員がおっしゃったように輸出すると、日本のコシヒカリは中国では金持ちが食べているというふうに言われてますけども、いわゆる攻めの農業政策と安倍総理もおっしゃってますけれども、外国へ売れる商品を作るとかそういったことをやりたいのかなと。更に大規模集約化を進めたいのかなというふうに私なりに考えておりますけれども、その辺は実際、農業生産者の方のご意見も聞いてみないと分からないところだと思います。

○委員（野田泰博君） 今までテレビだとか新聞だとかそういうのを見ているだけで、あのDDPとか何とか色んなのを見ているだけで、米というのは日本人にとって一番大事な主食で、それは他に譲りたくない訳ですよ。だからそれは絶対、正しいと思うんですが、政府の方では、これは何も自民党政権とかそういうんじゃなくて民主党政権の時もそうですし、米というものに対して、松島議員はそういう言葉では言わなかったですけども、要するに、自分たちで勝手に生産調整しろや、という雰囲気は今まで感じられているんですけども、その感じ方って、だからこういうことになっちゃうのかな。そうすると、それを止めて政府がもっと統制管理しろよという話になっていくのか。だから過剰米処理をするには、政府の力が入ってきて、生産調整、はい、ここは作っちゃいけない、ここは作れ、で、農村を潰すようなことをするのかそこら辺がよく分からないんですけども。すみません、これは個人的な感じだけで松島議員が言ったからこれがそうだというふうには感じませんけれども、より松島議員とか、例えば藤

村委員とか農村に近い方がどういうふうな感じを持っていますか。感じだけでいいです。それがどうのこうの言う事実として理解はしませんから。

○委員長（金島秀夫君） 松島議員。

○紹介議員（松島一夫君） 今、野田委員のほうから統制経済という言葉が出ましたけれども、私は政府の農業政策に対して統制経済というところは、当然期待しておりませんし、ざっくばらんに言っちゃえば、本来はお米でも自由主義経済ですから、生産者が作って生産者が売ると。売れないからといって政府になんとかせい、と言うのは本来は違うんだと思うんですけども、今までずーっと政府が逆ざやなんかしながらも積極的に買い上げて日本の米を守ってきたのが、ある日突然みたいな形でこれからは介入しないとと言われては困ると。その辺は緩やかにやってもらわなきゃいけないし、先程も申しましたとおり、さっきの補正予算の説明にも出ていましたけれども、飼料用の米を作る方には補助金を出しますというふうなのがありましたけれども、そういうふうな指導は当然やっていたかなければならないので、あとは生産者のほうも、飼料用の米を作るとなると、全部、飼料用の米を作るしかなくなると。半分主食で半分飼料用にするということはとてもじゃないけど不可能なことらしいですよ。更に言えば、作っている人達が、餌、豚に食わせるために俺たちは米を作ってるんじゃないという感情もあると思うんです。その辺は非常にナイーブな問題で、具体的にどうしたらうまくいくのかというのは分かりませんが、とにかく、本請願は過剰米の処理だけなんとかしてくれと、そうすればまた、自分達でも自分達は考えるよと、過剰米を処理して需給バランスがうまくとれるような方策さえ採ってくれば、あとは自分達で考えますと。全部、政府におんぶに抱っこでこうしてくださいというところまでは求めていない請願なんで、そんな感じですね。考えは。

○委員長（金島秀夫君） その他ございますか。戸田委員。

○委員（戸田栄子君） 過剰米のことですけど、一つは政府に考えてくれということですから、それは政府が考えることなのかもしれませんけど、未開地の国だとか震災とか、色んな災害にあった国に日本の過剰米をお金やなんかで、物資で送るのも一つの手ですけど、お米を送っているってのもあるんでしょうね。それをもう少し増やしてそちらに援助するとか、TPPで10万トンとか15万トンがまた更に受入れ体制に入るといようなことが報道されていますけど、それに対する農家の人達の声ってのはどのように松島議員、聞いてらっしゃいますか。

○委員長（金島秀夫君） 松島紹介議員。

○紹介議員（松島一夫君） 私のTPPに対する考えは置いておきます。あからさまなことを言えば、トヨタの自動車を売するために米を輸入するんだという考え方は、ほとんどの方、持っていてらっしゃいます。これは事実だと思います。それだけしか申し上げられないですけども。農家のかたがそういうふう感じてらっしゃることは確かです。

○委員長（金島秀夫君） 戸田委員。

○委員（戸田栄子君） トヨタのあれを売するために、トヨタの車を買うために、買っても

らうために、なるほど。政府じゃなくて、農家のかた。

○委員長（金島秀夫君） 松島議員。

○紹介議員（松島一夫君） 農家のかたがそういうふうに感じてらっしゃることは確かです。

○委員長（金島秀夫君） 戸田委員。

○委員（戸田栄子君） そうされているんだ。

○委員長（金島秀夫君） ちょっと整理しましょう。

○委員長（金島秀夫君） 戸田委員。

○委員（戸田栄子君） いいです、これは相対的にはこのとおりでいい意見書を求める請願を出してくださったと思って栄町議会に出してくださったことでよかったと思ってますので、ただ、その辺が政府にもうちょっと考えてもらわないと本当の解決にならないのかなと思って
いるんです。

○委員長（金島秀夫君） その他、質疑ございますか。

○委員長（金島秀夫君） 松島議員。

○紹介議員（松島一夫君） 農家のかた、これで問題ないですか。生産者のかた。

○委員長（金島秀夫君） 大澤委員。

○委員（大澤義和君） これは過剰米の処理だけで、例えば食料自給率とか、特に日本は今、先進国の中でも最低の、一番多いところでは120%、100%、なぜこの自給率、いま下がっている段階なんだよね。何年か前は42%位までいって、今、もう38%、39%、確かに国民が米を食べなくなりました。前、やはり労働のときは二合半とってましたんで、150キログラム位、年間、1人消費していたんです。今はもう、50キログラムから55キログラム。だから現実的に食べなくなったのは事実で、でもこうやって米余っているのになんで色々な食料を含めてセットで過剰米処理も含めてセットで自給率をあげようというような政策を摂らないのかなという、ここで自給率の話をしてもしようがないんですけども。ただ、流通の過程でいけば悪い消費者がいっぱいいて、アメリカから加工米で買って、それを給食に回しちゃったりとかあるんです。米は輸入だめだけでも加工米なら輸入できますよと。加工米買って、裏で、普通の米ですから子供の給食に回したり、色々な商社が色々なところに回すんです。だから加工米もしかりだし、今度は飼料用米、私達、農家から普通の米を飼料用米と買うわけです。その先、どこに行くか本当にわからない。裏で悪い業者がいて、安く、例えば1俵、飼料用米だと3,000円だよ、それを普通の米に3倍、4倍で売れるわけだから、その後の追跡調査やらないと。色々なその、政府対商社の事情があるわけだよ。あと、これから問題なのは今年の作況指数、それでも米価、今年は天気がいいよ、とれそうだとになったら米価がドーンと下がる。中にはそういう数字でゲームしている人もいるので、本当なんです、先を見込んで。今年は米いっぱい買おうかなとか、控えようかなとか。政府はそういう商売できないの

で、どうしても後手後手に回るので、政府がもっと食料、過剰米の処理も然りなんですけれども、いま言ったように世界的には食糧難の徒もいっぱいありますし、そういうところにODAを通じてもいいだろうし、自給率を上げるような施策というの、今回の過剰米処理も当然のことだと思います。

○委員長（金島秀夫君） 野田委員。

○委員（野田泰博君） 一つだけ、いま米作っている人に教えてもらいたいんですけども、もしよかったら。これの適切な値段ってあるんですか。2,000円、3,000円下がったというふうに聞いているけれども、例えば8,000円がいいの、9,000円がいいの、10,000円がいいのか12,000円がいいのかという。そういうのってあるんですか。

○委員長（金島秀夫君） 大野委員。

○委員（大野徹夫君） 25年から30年位前に、その当時、物価は安いのに23,000円位になったんです、1俵が。それが今、9,000円まで落ちているわけだから、農家苦しいというのは事実です。

○委員長（金島秀夫君） 野田委員。

○委員（野田泰博君） 適正価格ってあるんですか。

○委員長（金島秀夫君） 藤村委員。

○委員（藤村 勉君） 先程、松島委員からも説明あったんですけども、生産、要するに米を作るのに生産費そのものがだいたい13,000円かかるんです。だからその生産費を下回らない額、これが大体適正価格じゃないですか。だから13,000円はどうしてもかかるわけですから、作るのに。どうしてもそれ以上の価格は欲しいなというのが農家ですよ。

○委員長（金島秀夫君） よろしいですか。

○委員長（金島秀夫君） その他ありますか。菅原議員。

○委員（菅原洋之君） ちょっとお聞きしたいんですけども、この請願、意見書という過剰米処理を求めるところだけになっているんですけども、今後、需給調整だとかそういうところに対しての意見書だとかそういうのはお渡しになるつもりはあるんですか。

○委員長（金島秀夫君） 松島議員。

○紹介議員（松島一夫君） 今回、こういう請願をいただいたんで、この請願に基づいた意見書を提出するんですけども、先程、議長から米の受給率とか、更に消費拡大ですとかも含めて、そういうふうな皆さん方がこういう意見書出しましょうということになれば、当然、請願なしで議会として意見書出すことはやぶさかでないと考えております。

○委員長（金島秀夫君） よろしいですか。その他ありますか。

[「なし」の声あり]

○委員長（金島秀夫君） それでは、他に質疑がありませんので、これで質疑を終わります。松島議員、たいへんご苦労様でした。

○委員長（金島秀夫君） それでは、紹介議員の説明及び質疑応答を踏まえ、本請願に対して、各委員からの意見を含めた討論をお願いいたします。討論、ありますか。

○委員長（金島秀夫君） 戸田委員。

○委員（戸田栄子君） 最後に、松島議員がおっしゃったように骨子はここにある趣旨ですけれども、それプラス今の農業状態、農家の皆さんを取り巻く状況を考えたら、それに付随して日本の農業を守る立場での内容を補充した意見書をぜひ紹介議員の松島議員を中心に加えて出したほうがいいんじゃないかと思います。賛同者もそのようにおっしゃっていますし、この一項目だけでは農家の気持ちが十分反映されてないと思いますので、せっかく出されるならそういう意見書に、ぜひ皆さん、していただきたい。

○委員長（金島秀夫君） よろしいですか。松島委員。

○紹介議員（松島一夫君） これはこれとしていいけれども、また後の段階でということですよ。これを変えるんじゃないで。

○委員長（金島秀夫君） その他はございませんか。藤村委員。

○委員（藤村 勉君） 今回、この過剰米、これを何とかしないとやはり米価の金額は上がってこないと思います。そればかりじゃなくて、先ほど議長も言いましたけれども、日本そのものが食料自給率が全く下がっているんです。こんな先進国、はっきり言ってどこにもないですから。食う物なかったらはっきり言えば、いま輸出しているオーストラリア、アメリカ、そういうところから入れてますけれども、これが、向こうが何か飢饉なったときに、それをいくらちゃんと契約していても、入ってくるのかというそういう補償もないわけですから。自給率を上げるためにも、やはり農家をもっと守らなくちゃいけないと思いますし、それにはやはり過剰米は何とかしなくちゃ駄目だと。ですので、私はこれに大賛成です。

○委員長（金島秀夫君） その他ありますか。それでは各委員からの討論をこれで終わりにします。

○委員長（金島秀夫君） これより請願第1号を採決いたします。請願第1号政府による緊急の過剰米処理を求める意見書の提出を求める請願書を採択することに賛成の方は、挙手願います。

[挙手全員]

よって、請願第1号政府による緊急の過剰米処理を求める意見書の提出を求める請願書は、採択すべきと決定いたしました。以上で経済建設常任委員会に付託された案件の審査は終了いたしました。

なお、本委員会の委員長報告書の作成は、委員長に一任願います。

◎ 閉 会

○委員長（金島秀夫君） 本日の会議を閉じます。

以上をもって、経済建設常任委員会を閉会といたします。

午前11時50分 閉会

上記会議録を証するため下記署名いたします。

平成27年6月24日

経済建設常任委員会委員長 金島 秀夫